

議会活動報告

## 01 | 京都市議から条例案! 技能労務職の新規採用再開に待った!

技能労務職(=理実職)とは、公用車・バスの運転手、ごみ収集作業員、警備員、清掃作業員などの現場作業を行う公務員の職種を指します。

技能労務職は民間企業の類似職種と比較すると、ときに平均年収格差が1.5倍以上になることから、度々問題視されてきました(表①、表②参照)。大阪市では、技能

労務職の民間との所得格差は正に向か改革に乗り出すなど、現在、全国各地で技能労務職に関する見直しがなされています。

京都市では、平成18年に技能労務職員の不祥事問題が相次いた際に「改革大綱」を定め、新規採用の凍結や民間委託化50%以上を目指すといった、行政改革を行いました。しかし今回突然、技能労務職の新規採用が何事もなかったかのように再開され、誰かでは大きな波紋を呼んでいます。

そもそも現状として、人員不足に陥っているわけではありません。では一体なぜ行

政局が新規採用の再開をしたかというと、「安定的なサービス供給に向け非常時への対策に備える」「年齢バランスを整える」との説明が返ってきます。しかしこれでは、半永久的に技能労務職を完全民間委託しないという前提になりかねません。

本來、市民に向けて約束した計画(改革大綱)の反故自体が許されないことです。この問題に「待った」をかけていかなければ、せっかく進めた行政改革がまた逆戻りしてしまいます。

京都府は2月議会に向け、みんなの党・無所属の会派と連携し、「改革大綱」の約束がきちんと果たされるよう「条例案」の提出に向け動きます。

| 表③<br>●京都市・まち美化業務員(作業職員)<br>の年代別平均年収 |       |
|--------------------------------------|-------|
| 20代                                  | 444万円 |
| 30代                                  | 582万円 |
| 40代                                  | 703万円 |
| 50代                                  | 799万円 |

出所:「事業別年収、平成22年度の実績より」

| ●京都市・建設労務技術士(作業職員)<br>の年代別平均年収 |       |
|--------------------------------|-------|
| 30代                            | 561万円 |
| 40代                            | 685万円 |
| 50代                            | 713万円 |

出所:「事業別年収、平成22年度の実績より」

●京都市・まち美化業務員(作業職員)  
の年代別平均年収

まち美化業務員(作業職員)  
(民間・類似職種)の平均年収

平均年齢 平均年収  
44.3歳 399万円

出所:「事業別年収、平成22年度の実績より」

●民間・農業物販売業員  
(民間・類似職種)の平均年収

平均年齢 平均年収  
44.3歳 399万円

出所:「事業別年収、平成22年度の実績より」



京都市議会の議場

## 02 | 高校の特色化と学校選択の自由化を目指して

「15の春は立かせない」。この言葉通り、京都市は高校の全入化を重視し、高校入試において総合選抜制をとっています。総合選抜制のメリットは、「家から近い高校に進む」「学年間の学力差が生じにくい」「不合格者を出しにくい」と言われています。



塾講師の方にヒアリング

しかし、私は以前からこの受験制度に疑問を持ち、単独選抜制への移行を掲げています。というもの、現行の総合選抜制は学校選択の自由を奪い、地域間での不平等を生んでいるためです。各高校の特色化に伴い、学校の選択理由は、部活動や校舎・制服の印象、校内の雰囲気、進学実績など、随分と多様化してきています。そのなかで、最寄りの高校しか希望できず、またときに、きちんとした説明もなく進んでいない高校に囚われる制度は、必ずしも受験生やその保護者にはセーフティーネットとして映りません。だからこそ、最寄りの高校を避けるために私立高校受験が増加しており、またこの制度を元手にとって他の過学園に住所を変更さ

せる、といったことが横行しているのではないかでしょうか。自分では望校を置ぶからこそ、受験勉強も頑張れるのだと思います。各高校の特色をもとに志望校を置ぶ回潮が過脱となつた昨今では、全国的に単独選抜制への切り替えが進み、総合選抜制を維持するのではなく、京都のみとなっています。長くこの想を抱える中で、今日ようやく、京都市乙訓地域公立高校教育制度に係る抜本的見直しが始まりました。より魅力ある高校教育制度の推進に向けて、今後の公立高校の教育制度の在り方の検討が始まっています。検討にはもともとよいタイミングです。委員会で単独選抜制への移行を求めています。複雑すぎる制度もシンプルに

議会活動報告

02

高校の特色化と学校選択の自由化を目指して

組み替わなければなりません。学校内で学力差を何段階も設けるより、専門性の種類を設ける方が有効と考えるために、特進クラスである普通科第Ⅰ類の廃止でよいと思います。一方で、普通科第Ⅱ類のスポーツや芸術、英語などは特色化を活

かす意味で残すべきです。

いずれにしても、制度に沿まれて納得できない受験の挫折を味わう子が出ないよう、制度改革への提案を進めます。今後も、子供たちにとってより良い教育環境の創設により一層の取組が必要です。

議会活動報告

## 03 | 経営監督が及ばない「外郭団体の外郭団体」にメス

天下りの問題でよく取り上げられる外郭団体(市が4分の1以上の出資を行っている法人のこと。例:財團法人、社団法人等)、京都市にも32団体の外郭団体があり、毎年多額の補助金と外部委託費が京都市からおり仕込みになっています。ただし今回の調査で、外郭団体がさらに出資を行う団体、つまり外郭団体の外郭団体の存在が明らかになってきました。

京都市住宅供給公社は、市が100%出資する外郭団体です。この公社は、さらに(株)京都すまいづくりセンターと洛西ケーブルビジョン(株)の2社に出資をしていました。調べてみると、この出資先2社の社長

はいずれも市役所のOBでした。ここで行われる無料セミナーや住宅相談の事業は、その予算の約半分が広告費に充てられているという、投資を度外視した事業が平然と行われています。つまり、企業では当然である「費用対効果の検証」があまりにも希薄であり、典型的な「お役所仕事」の姿が見えてれます。「京都市外郭団体改造計画」が策定され、外郭団体は天下り等が厳しく監視されるようになっています。しかし、今回発見した外郭団体の外郭団体には、実質的に市が出資をしていたながら、市の経営監督は及んでいません。これでは税金の使い道を

適正に監視できず、天下りの温床となる危険性があります。そのため、この部分においても厳しく監視をしていくようお願いさせていただきました。(平成23年10月21日・決算委員会、市長總括同年11月10日:まちづくり委員会)



今月議会の議場

議会活動報告

## 04 | 船岡山公園のレンタル料 平成22年から賃料4倍に!

近年になって、北区にある船岡山公園の賃料が年間7,989万円であることが分かりました。船岡山は、そもそも大徳寺と建



他の会議場と並んで使用

勅神社が持ち主ですが、京都市は大徳寺の持ち分を借り受けた公園にしています。もともと、昭和58年に年額1,882万円で賃貸借契約が締結されていましたが、平成22年8月に賃料が約4倍に値上がりしていました。この部分の指摘に対し、京都市側は「今後は多少なりとも賃料が下がるよう努力したい」と回答。ちなみに、船岡山公園の利用者数は散歩の方も含め月に5,000名程度。賃料は約

660万円/月のため、一日の利用で一人1,320円程度の計算になります。何故これほど高料が上がったのか、そして今後、公園を維持する必要性がどこまであるのか、議論をしなければなりません。公平公正の観点からも、「財政難の余りに出て、維持費と利用者の不均衡を考慮したうえで嵩上げもご検討いただきたい」と要望致しました。(平成23年10月14日:決算委員会)

その他にも下記の課題を取り組みました!

- ・生活保護の不正受給対策
- ・図書館の本毎年約9万冊の蔵書処分に「有効活用を!」
- ・必要業務の見直し「水道の閑闇検査業務」
- ・外債運用における巨額損失
- ・火災件数に「無損事故?」

これらの専門課題についてもブログ・街頭演説等で随時ご報告して参ります!是非ご覧くださいませ。

江村りさ

検索

